

## 新学年が始まりました。「5月態度」にご用心!!

新中1生・新高1生にとっては、ようやく授業が始まった頃でしょうか。特進館学院ですでに学習した内容の授業が始まります。ここで大切なことは「習ったから知っている・・・」この後どう考えるかです。「知っているから適当でよい」→通知表では3以下のレベルです。「知っているけど学校の授業こそしっかり聞こう」→通知表5・4の考え方です。

また、10年前までの「相対評価時代」ではテストの点数でほとんど通知表数値が決まっていたのですが今やテストは半分です。「提出すべきワーク・宿題」や「発表回数」授業中の姿勢などが半分以上を占めています。学校が注目するのは「5月態度」です。4月中は全員猫をかぶっているのを見えにくいのですが、少し慣れてきた「5月」に本当の姿が見え始めます。

一度ついたイメージは半年間有効と考えてよいのではないのでしょうか？つまり1学期の通知表にまで影響してくるわけです。まずは「5月態度を意識せよ」と言っておきます。中間テストがない中学の生徒は「5月態度に特に特に注意」が必要です。〔野垣〕

4.5月のおもなスケジュール		
4/25	土	中3保護者会
29	水	昭和の日【授業あり】
5/3 ~6		【休室】
9	土	中間直前ゼミ
10	日	ワーク GARIBEN
11	月	新クラス発表
16	土	中間直前ゼミ
17	日	ワーク GARIBEN
18	月	新クラス編成
23	土	中間直前ゼミ
24	日	ワーク GARIBEN
31	日	6月公開テスト

## 自分自身を見つめる

新学期が始まってからもうすぐ2週間が経とうとしています。新しい環境には慣れてきたでしょうか。そろそろ新学年での目標設定もしていかなければなりません。しかし目標とはどうやって決めればよいのでしょうか。

その第一歩が、「自分自身を見つめ直すこと」です。周りからいつも言われることや自分自身の行いをしっかり思い起こして、「周りから見た自分」を想像してみましょう。そして、もしそんな人がいたときに自分ならどう思うのかを考え、良いところと改善すべきところを見つけ、改善するための行動や心構えを目標にすればいいのです。もちろん自分の良いところをどんどん伸ばすのも忘れずに!!〔金子祐太〕



春期講習終了後の自分へのごほうび『USJツアー』。目一杯満喫しました!

## 本部事務局より

5月分学費の振替日は、4/27(月)となります。月間スケジュールにも記載しておりますが、5/31(日)に「公開テスト」が行われます。受験料(小学生:¥2,800、中学生:¥3,300)を来月の6月分学費(5/27引落分)と合算でご請求させていただきます。ご不明な点等がございましたら、本部事務局(TEL:079-563-0300)までお問い合わせください。

## 「客層」の悪い日帰り温泉

仕事柄、なかなか泊まりでゆっくり旅行することができないので、たまの休みに旅行気分で行き先で近場の日帰り温泉に出かけることが私のささやかな楽しみです。ここから車で1時間圏内だけでも、ステキな温泉施設がたくさんあって、わずか700円~800円で身も心もリフレッシュ。風呂上がりのコーヒー牛乳やかき氷は最高!

ただ、近くの温泉施設の中で「二度と行かない」と決めた所が1軒だけあります。名前は言いませんが、そこのお客はとにかくマナーが悪い。浴槽でも洗い場でも。親も子も。湯上り休憩コーナーでもそんな人がスペースを占領し、店員も知らんぷり。温泉施設なのに、癒されるどころか疲れて帰ったという最悪の経験でした…。

私は、サービス業は「客層が命」だと考えています。仮に店員がよくても利用者の質が低いと、その不快感がすべてのサービスを打ち消してしまうという恐ろしいことに…。

塾でも同じようなことが言えると思います。「割引」や「無料」などを常時売りにしている塾、「家から近い」という理由の生徒ばかりの塾などの「客層の低い塾」では、万が一先生がよくても、成績を上げることなど不可能です。当然ながら、その塾の学力レベルも低くなる。

生徒を志望校合格へ導くためには、先生だけでなく、一緒に学ぶ他の生徒たちとの連携がとても重要。これが、特進館学院が大切にしている「塾の空気」です。私たちは、進学実績だけではなく、これからはずっと「客層も地域No.1」の進学塾であり続けたいと考えています。〔北村昌弘〕



## 編集 後記

5月といえば端午の節句ですね。旧暦で雛祭りをした我が家では、ようやく雛人形が片付いたところですが…。雛人形や鯉のぼり、鎧兜など、飾るのも一苦労する節句のお祝いですが、はたして何歳まで飾ればよいのでしょうか?雛人形は嫁入りしても一緒に持っていき、長く飾り続けるものようですが、鎧兜は昔の元服にあたる数え年の15歳までとする説や、死亡率の高かった7歳までとする説などがあります。明確な決まりがあるわけではないので、最近は子どもの興味が薄れる中高生くらいまで飾るご家庭が多いようですね。